

編集後記

★ 15年くらい前でしょうか、親しい台湾の先生との会食で驚いたことがあります。彼は高名な脊椎外科医で大病院の経営者でもあるのですが、手術について“年を取るほど、メスを持つのが怖くなっていく”といったのです。手術件数が増えるほど、技術が上がるほど、見事に患者さんを治す場面が増える一方で、数は少ないものの不可抗力ともいえるトラブルで不幸な状況になる患者さんが現れます。現在、当時以上に彼の裏表のないコメントが私の心に深く刺さるようになっていきます。手術の経過が思わしくなく、今でも申し訳ない思いのある患者さんが何人かおられます。そうした患者さんが外来で不具合をいくつ訴えても、こちらができることは限られますし、患者さんもお医者さんと会っても楽しいことはありません。ほとんどの方は外来診察も次第にまばらになり、そしてキャンセルが多くなり、最後には音信不通になってしまいます。

★ 先日、10年以上前に手術をした患者さんから近況のご連絡をいただきました。前述しましたように相当のバイアスはあるものの、こうした便りは外科医冥利に尽きるような感謝でつぶられていたのですが、最後にこんな質問がありました。“先生はどうして医者になろうと

思ったのですか？”。

★ 不思議なことに医師から尋ねられることはほぼ皆無ですが、他業種の方などからはしばしば受ける質問です。さらに医学部の受験面接や筆記試験では、こちらが聞いていなくても医師を目指した動機を受験者がアピールする場面に遭遇します。ほとんどの場合は本人あるいは親族が病にかかり、その過程で医師の献身的な姿に感銘を受けて医師を目指したという背景が示されます。誰もが納得するシナリオであり、医学を目指す学生の志の強さを再確認することとなるわけです。

★ 当てはまるストーリーがない私の場合には、今回の患者さんからの問いかけに思わず困ってしまいました。なにせ私の小中高時代にはほぼ家族一同が元気であり、亡くなったのは脳卒中でポックリと逝ってしまった祖父くらい。病気で格闘した親族は記憶にないので、印象的な医師との出会いもなく、患者さんが「なるほど」と感じる説明ができないのです。今回も返

信で次のような情けない言い訳になってしまいました。“私が医者となったきっかけでお話しするほどのエピソードはありません。ですが、身体そして一体である心の苦しみを持つ人を理解して、その解決と一緒に向かい合う職業は素晴らしいと医師になってから痛感しています”。

(竹下克志)



William Heberden (1710~1801)

生田義和 画
2025-1

顧問	林 浩一郎	石井 良章	中村 孝志	高岡 邦夫	長野 昭	四宮 謙一
	岩本 幸英	星野 雄一	越智 光夫	遠藤 直人	大川 淳	
編集	松田 秀一	竹下 克志	安達 伸生	稲葉 裕	吉井 俊貴	
臨床雑誌	整形外科 76巻・1号 (1月号, 第915冊)			2025年1月1日	発行	
編集兼発行者	東京都文京区本郷三丁目42-6			小立 健太	編集	
印刷所	東京都江東区亀戸七丁目2-12			三報社印刷株式会社	営業	
発行所	〒113-8410 東京都文京区本郷三丁目42-6			編集	TEL 03-3811-7619	FAX 03-3811-8660
株式会社 南江堂	https://www.nankodo.co.jp/			営業	TEL 03-3811-7239	

本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権(送信可能化権を含む)、貸与権、二次的著作物の利用に関する原著作者の権利は、(株)南江堂が保有します。

【JCOPY】(出版者著作権管理機構 委託出版物)

本誌の無断複写は著作権法上の例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構(電話 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, e-mail: info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。

広告申込所: 〒113-0033 東京都文京区本郷5-24-6 本郷大原ビル6階 文京メディカル TEL 03-3817-8036